

Sun™ Integrated Lights Out Manager 2.0 補足マニュアル Sun Blade™ T6320 サーバーモジュール

Sun Microsystems, Inc.
www.sun.com

Part No. 820-4094-10
2008 年 2 月, Revision A

コメントの送付: <http://www.sun.com/hwdocs/feedback>

Copyright 2008 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, U.S.A. All rights reserved.

米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします) は、本書に記述されている技術に関する知的所有権を有しています。これら知的所有権には、<http://www.sun.com/patents> に掲載されているひとつまたは複数の米国特許、および米国ならびにその他の国におけるひとつまたは複数の特許または出願中の特許が含まれています。

この配布には、第三者が開発した構成要素が含まれている可能性があります。

本書およびそれに付属する製品は著作権法により保護されており、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。サン・マイクロシステムズ株式会社の書面による事前の許可なく、本製品および本書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。

本製品のフォント技術を含む第三者のソフトウェアは、著作権法により保護されており、提供者からライセンスを受けているものです。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company Limited が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。

本製品は、株式会社モリサワからライセンス供与されたリュウミン L-KL (Ryumin-Light) および中ゴシック BBB (GothicBBB-Medium) のフォント・データを含んでいます。

本製品に含まれる HG 明朝 L と HG ゴシック B は、株式会社リコーがリョービマジクス株式会社からライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。平成明朝体 W3 は、株式会社リコーが財団法人 日本規格協会 文字フォント開発・普及センターからライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。また、HG 明朝 L と HG ゴシック B の補助漢字部分は、平成明朝体 W3 の補助漢字を使用しています。なお、フォントとして無断複製することは禁止されています。

Sun、Sun Microsystems、Java、Sun Blade は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems 社の商標もしくは登録商標です。サン・ロゴマークおよび Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャーに基づくものです。

PostScript のロゴマークは Adobe Systems, Incorporated 社の登録商標です。

OPENLOOK、OpenBoot、JLE は、サン・マイクロシステムズ株式会社の登録商標です。

ATOK は、株式会社ジャストシステムの登録商標です。ATOK8 は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、ATOK8 にかかる著作権その他の権利は、すべて株式会社ジャストシステムに帰属します。ATOK Server/ATOK12 は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、ATOK Server/ATOK12 にかかる著作権その他の権利は、株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。

本書で参照されている製品やサービスに関しては、該当する会社または組織に直接お問い合わせください。

OPENLOOK および Sun™ Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザーおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザーインターフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

U.S. Government Rights—Commercial use. Government users are subject to the Sun Microsystems, Inc. standard license agreement and applicable provisions of the FAR and its supplements.

このサービスマニュアルに記載されている製品および情報は、米国の輸出規制法に従うものであり、その他の国の輸出または輸入に関する法律が適用される場合もあります。核、ミサイル、化学生物兵器、または核の海上での最終使用あるいは最終使用者は、直接的または間接的にかかわらず厳重に禁止されています。米国の通商禁止対象国、または拒否された人物および特別認定国リストにかぎらず、米国の輸出禁止リストに指定されている実体への輸出または再輸出は、厳重に禁止されています。

予備の CPU の使用または交換は、米国の輸出法に従って輸出された製品に対する CPU の修理または 1 対 1 の交換に制限されています。

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われえないものとします。

本書には、技術的な誤りまたは誤植のある可能性があります。また、本書に記載された情報には、定期的に変更が行われ、かかる変更は本書の最新版に反映されます。さらに、米国サンまたは日本サンは、本書に記載された製品またはプログラムを、予告なく改良または変更することがあります。

本製品が、外国為替および外国貿易管理法 (外為法) に定められる戦略物資等 (貨物または役務) に該当する場合、本製品を輸出または日本国外へ持ち出す際には、サン・マイクロシステムズ株式会社の事前の書面による承諾を得ることのほか、外為法および関連法規に基づく輸出手続き、また場合によっては、米国商務省または米国所轄官庁の許可を得ることが必要です。

原典: Sun Integrated Lights Out Manager 2.0 Supplement for Sun Blade T6320 Server Modules
Part No: 820-2546-10
Revision A



目次

はじめに ix

1. Sun Blade T6320 サーバーモジュール用 ILOM 1

Sun Blade T6320 固有の ILOM 機能 1

シャーシ監視モジュールの機能 2

システムファームウェアの更新 2

パスワードを出荷時のデフォルトにリセット 2

▼ root のパスワードを出荷時のデフォルトにリセットする 3

2. ホストの管理 5

リモートコントロールの管理 5

▼ CLI を使用して、ホストの起動モードの構成を管理する 6

▼ CLI を使用して、ホストの起動モードのスクリプトを管理する 7

▼ CLI を使用して、ホストのリセット時の起動モードの動作を変更する 7

▼ CLI を使用して、ホストの起動モードの有効期限を表示する 8

▼ Web インタフェースを使用して、リモートコントロール構成設定を変更する 8

ホスト情報の表示と、エラー状況に関するシステムポリシーの設定 9

▼ CLI を使用して、ホストの MAC アドレスを表示する 10

▼ CLI を使用して、ホストの OpenBoot のバージョンを表示する 10

▼ CLI を使用して、ホストの POST のバージョンを表示する 10

- ▼ CLI を使用して、ウォッチドッグタイマーが期限切れになったときのホストの動作を決定する 11
- ▼ CLI を使用した診断中に、エラーが検出されたときのホストの動作を指定する 11
- ▼ Web インタフェースを使用して、ホスト制御機能を表示および構成する 12

診断の管理と POST 13

- ▼ CLI を使用して、診断のレベルを指定する 13
- ▼ CLI を使用して、診断モードを変更する 14
- ▼ CLI を使用して、診断トリガーの条件を指定する 14
- ▼ CLI を使用して、診断出力の冗長性の量を選択する 15
- ▼ Web インタフェースを使用して、診断設定を管理する 15

システムユーザーの対話の管理 16

- ▼ システムでブレーク信号の送信を有効にするか、または CLI を使用してコアダンプを強制実行する 17
- ▼ CLI を使用して、ホストの状態情報を表示する 17

3. サービスプロセッサの管理 19

顧客情報の格納 19

- ▼ CLI を使用して、顧客の FRU データを変更する 19
- ▼ CLI を使用して、システム識別情報を変更する 20
- ▼ Web インタフェースを使用して、顧客の識別情報を変更する 20

出荷時のデフォルトへのサービスプロセッサ設定の変更 21

- ▼ CLI を使用して、サービスプロセッサの設定を出荷時のデフォルト値にリセットする 21
- ▼ Web インタフェースを使用して、サービスプロセッサの設定を出荷時のデフォルト値にリセットする 22

コンソールのエスケープ文字の変更 22

- ▼ CLI を使用して、コンソールのエスケープ文字を変更する 23

構成ポリシーの設定の変更 23

▼ CLI を使用して、ユーザーデータベースのバックアップを使用不可または再度使用可能にする	24
▼ CLI を使用して、ホストサーバーの電源投入を使用不可または再度使用可能にする	24
▼ CLI を使用して、電源投入の遅延を使用不可または再度使用可能にする	25
▼ CLI を使用して、ホストの自動電源投入を使用不可または再度使用可能にする	26
▼ Web インタフェースを使用して、構成ポリシーの設定を管理する	27
DHCP サーバーの IP アドレスの表示	27
SSH サーバーの設定の管理	28
▼ CLI を使用して、SSH 鍵のタイプを変更する	28
▼ CLI を使用して、新しい SSH 鍵セットを生成する	29
▼ CLI を使用して、SSH サーバーを再起動する	29
▼ CLI を使用して、SSH サービスを使用可能または使用不可にする	29
▼ Web インタフェースを使用して、SSH サーバーの設定を管理する	30
4. 仮想キースイッチの設定の管理	33
▼ CLI を使用して、仮想キースイッチを制御する	33
▼ Web インタフェースを使用して、仮想キースイッチを制御する	34
A. IPMI センサーのリファレンス	37
B. ALOM CMT 互換シェル	39
下位互換性の制限	39
ILOM ネットワーク構成プロパティの構成手順に対する確定手順の追加	39
ALOM CMT 互換シェルの作成	40
▼ ALOM CMT 互換シェルを作成する	41
▼ ALOM CMT シェルとホストコンソールを切り替える	42
▼ ILOM CLI に戻る	42
ILOM コマンドと ALOM CMT コマンドの比較	43

ALOM CMT 変数と ILOM プロパティの比較 50

索引 53

表目次

表 4-1	keyswitch_state の値	34
表 A-1	Sun Blade T6320 サーバーモジュールのセンサー	37
表 A-2	Sun Blade T6320 サーバーモジュールのインジケータ	38
表 B-1	ALOM CMT の commit 変数と対応する ILOM プロパティ	40
表 B-2	機能別 ALOM CMT シェルコマンド (対応する ILOM コマンドあり)	44
表 B-3	ALOM CMT 変数と対応する ILOM プロパティ	51

はじめに

『Sun Integrated Lights Out Management 2.0 補足マニュアル Sun Blade T6320 サーバーモジュール』は、『Sun Integrated Lights Out Manager ユーザーズガイド』の情報をプラットフォームに固有の追加情報で補足するものです。このマニュアルでは、すべてのプラットフォームに共通の一連の機能を補足する、Sun Blade T6320 サーバーモジュール用の Integrated Lights Out Manager (ILOM) ファームウェア機能について説明します。ILOM ファームウェアは、Sun Blade T6320 サーバーモジュールを管理するために使用されます。

お読みになる前に

このマニュアルの情報を十分に活用するには、UNIX® コマンドの知識と経験が豊富で、次のマニュアルで説明されている項目について十分な知識を備えている必要があります。

- 『Sun Blade T6320 Server Module Product Notes』
- 『Sun Integrated Lights Out Manager ユーザーズガイド』
- 使用する Sun Blade モジュラーシステム (シャーシ) 用の ILOM CMM マニュアル

マニュアルの構成

第 1 章では、Sun Blade T6320 サーバーモジュール用 ILOM について紹介します。

第 2 章では、ホストに関する Sun Blade T6320 固有の機能の管理について説明します。

第 3 章では、サービスプロセッサ (SP) に関する Sun Blade T6320 固有の機能の管理について説明します。

第 4 章では、システムデバイスに関する Sun Blade T6320 固有の機能の管理について説明します。

付録 A では、IPMI センサーデータ (/SYS 名前空間) を示します。

付録 B では、ILOM のコマンドとプロパティに対応する ALOM CMT 互換シェルのコマンドとプロパティのリストを示し、説明します。

索引は、必要な情報を見つけるのに役立ちます。

UNIX コマンドの使用

このマニュアルには、システムの停止、システムの起動、およびデバイスの構成などに使用する基本的な UNIX コマンドと操作手順に関する説明は含まれていない可能性があります。

この情報については、次のいずれかを参照してください。

- 使用しているシステムに付属のソフトウェアマニュアル
- 下記にある Solaris™ オペレーティングシステムのマニュアル

<http://docs.sun.com>

書体と記号について

書体または記号	意味	例
AaBbCc123	コマンド名、ファイル名、ディレクトリ名、画面上のコンピュータ出力、コード例。	.login ファイルを編集します。 ls -a を実行します。 % You have mail.
AaBbCc123	ユーザーが入力する文字を、画面上のコンピュータ出力と区別して表します。	マシン名% su Password:
<i>AaBbCc123</i>	コマンド行の変数部分。実際の名前や値と置き換えてください。	rm <i>filename</i> と入力します。
『 』	参照する書名を示します。	『Solaris ユーザーマニュアル』
「 」	参照する章、節、または、強調する語を示します。	第 6 章「データの管理」を参照。 この操作ができるのは「スーパーユーザー」だけです。
\	枠で囲まれたコード例で、テキストがページ行幅を超える場合に、継続を示します。	% grep `^#define` \ XV_VERSION_STRING

注 – ブラウザの設定に応じて、文字の表示が異なります。文字が正しく表示されない場合、ブラウザの文字エンコーディングを Unicode UTF-8 に変更してください。

シェルプロンプトについて

シェル	プロンプト
UNIX の C シェル	<i>machine-name%</i>
UNIX の Bourne シェルと Korn シェル	\$
スーパーユーザー (シェルの種類を問わない)	#
OpenBoot™ PROM ファームウェア	ok
ILOM コマンド行インタフェース (CLI)	->
ALOM CMT 互換シェル	sc>

関連マニュアル

Sun Blade T6320 サーバーモジュールのマニュアルは、次の Web サイトで入手できます。

<http://docs.sun.com/app/docs/prod/blade.t6320>

そのほかの Sun のマニュアルは、次の Web サイトで入手できます。

<http://jp.sun.com/documentation/>

用途	タイトル	Part No.
Sun Blade T6320 サーバーモジュールのマニュアル	『Where to Find Sun Blade T6320 Server Module Documentation』	820-3051
最新情報	『Sun Blade T6320 Server Module Product Notes』	820-2383
安全性に関する情報	『Sun Blade T6320 Server Module Safety and Compliance Guide』	820-2387
	『Important Safety Information About Sun Hardware』	816-7190
サーバーモジュールの設置	『Sun Blade T6320 サーバーモジュール設置マニュアル』	820-4086

用途	タイトル	Part No.
サーバーモジュールの監視と管理	『Sun Integrated Lights Out Manager 2.0 ユーザーズガイド』	820-2698
	『Sun Integrated Lights Out Manager 2.0 補足マニュアル Sun Blade T6320 サーバーモジュール』	820-4094
	使用する Sun Blade モジュラーシステム用の ILOM マニュアルも参照してください。	
保守に関連する情報	『Sun Blade T6320 Server Module Service Manual』	820-2386
Logical Domains (LDoms)	次の Web サイトにあるオンラインマニュアル http://docs.sun.com/app/docs/prod/ldoms.mgr	
診断テストの実行	次の Web サイトにある SunVTS™ 6.4 マニュアル http://docs.sun.com/app/docs/prod/vts64	
Sun Blade 6000 モジュラーシステム	次の Web サイトにあるオンラインマニュアル http://docs.sun.com/app/docs/prod/blade.6000mod	
Sun Blade 6048 モジュラーシステム	次の Web サイトにあるオンラインマニュアル http://docs.sun.com/app/docs/prod/blade.6048mod	
システムおよびネットワークの管理	『Solaris System Administrator Guide SPARC: Installing Solaris Software』	
オペレーティングシステムの使用	Solaris 10 User Collection	

マニュアル、サポート、およびトレーニング

Sun のサービス	URL
マニュアル	http://jp.sun.com/documentation/
サポート	http://jp.sun.com/support/
トレーニング	http://jp.sun.com/training/

Sun 以外の Web サイト

このマニュアルで紹介する Sun 以外の Web サイトが使用可能かどうかについては、Sun は責任を負いません。このようなサイトやリソース上、またはこれらを経由して利用できるコンテンツ、広告、製品、またはその他の資料についても、Sun は保証しておらず、法的責任を負いません。また、このようなサイトやリソース上、またはこれらを経由して利用できるコンテンツ、商品、サービスの使用や、それらへの依存に関連して発生した実際の損害や損失、またはその申し立てについても、Sun は一切の責任を負いません。

ご意見をお寄せいただく際には、下記のタイトルと Part No. を記載してください。

『Sun Integrated Lights Out Management 2.0 補足マニュアル Sun Blade T6320 サーバーモジュール』、Part No. 820-4094-10

第1章

Sun Blade T6320 サーバーモジュール用 ILOM

Integrated Lights Out Manager (ILOM) は、一部の Sun サーバープラットフォームにプリインストールされているシステム管理ファームウェアです。ILOM ファームウェアを使用すると、サーバーシステムに取り付けられているコンポーネントをアクティブに管理および監視できます。このファームウェアは、ラック搭載型サーバーやブレードサーバーなど、さまざまな Sun サーバープラットフォームでサポートされます。これは、Sun Blade T6320 サーバーモジュールのサービスプロセッサ (SP) と、Sun Blade モジュラーシステムシャーシのシャーシ監視モジュール (CMM) にプリインストールされています。この章では、Sun Blade T6320 サーバーモジュール用 ILOM について紹介します。

この章は、次の節で構成されています。

- 1 ページの「[Sun Blade T6320 固有の ILOM 機能](#)」
- 2 ページの「[シャーシ監視モジュールの機能](#)」
- 2 ページの「[システムファームウェアの更新](#)」
- 2 ページの「[パスワードを出荷時のデフォルトにリセット](#)」

Sun Blade T6320 固有の ILOM 機能

ILOM ファームウェアは多くのプラットフォーム上で動作し、すべてのプラットフォームに共通する機能をサポートしています。ILOM 機能の中には、すべてのプラットフォームではなく一部のプラットフォームでのみ使用できるものがあります。このマニュアルでは、『Sun Integrated Lights Out Manager ユーザーズガイド』で説明されている一連の機能を補足する、Sun Blade T6320 サーバーモジュール用の機能について説明します。

シャーシ監視モジュールの機能

ILOM シャーシ監視モジュール (CMM) は、Sun Blade モジュラーシステムシャーシを管理します。ILOM シャーシ監視モジュールは、シャーシコンポーネントを管理し、個々のサーバーモジュール内のサービスプロセッサへのアクセス方法を提供します。また、シャーシのファン速度を自動的に制御します。使用するシャーシでの CMM ILOM の使用方法については、使用するシャーシ用の ILOM 管理マニュアルを参照してください。

システムファームウェアの更新

最新版のシステムファームウェアが使用可能になると、SunSolveSM の Web サイトからパッチの形式でこれを入手することができます。

注 – Sun Update Connection Manager を使用して、システムファームウェアを入手することはできません。

SunSolve を使用してパッチを入手する方法については、『Sun Blade T6320 Server Module Product Notes』を参照してください。

ファームウェアの更新手順については、『Sun Integrated Lights Out Manager ユーザーズガイド』の「ILOM ファームウェアの更新」の章を参照してください。

パスワードを出荷時のデフォルトにリセット

ILOM の root のパスワードを出荷時のデフォルト (changeme) にリセットする手順では、サービスプロセッサにジャンプを取り付ける必要があります。この手順は、コンピュータシステムの保守および修復を担当する技術者、保守担当者、またはシステム管理者が実行するようにしてください。この担当者は、『Sun Blade T6320 Server Module Service Manual』の「Preface」に記載されている条件を満たしている必要があります。ほかのサービスプロセッサの設定を出荷時のデフォルトに戻す方法の詳細は、[21 ページの「出荷時のデフォルトへのサービスプロセッサ設定の変更」](#)を参照してください。

▼ root のパスワードを出荷時のデフォルトにリセットする

1. モジュラーシステムシャーシからサーバーモジュールを取り外します。

ILOM または ALOM CMT コマンドを使用して取り外すための準備を行い、青色の取り外し可能 LED が点灯していることを確認します。これは、ブレードを安全に取り外せることを示しています。

2. サーバーモジュールを開き、J0600 の場所に標準のジャンパを取り付けます。
3. サーバーモジュールを閉じて、モジュラーシステムシャーシにこれを取り付けてから、サーバーモジュールを起動します。

この手順については、『Sun Blade T6320 サーバーモジュール設置マニュアル』を参照してください。

ILOM の root のパスワードが出荷時のデフォルト (changeme) にリセットされました。

4. root のパスワードを変更します。

この手順については、『Sun Blade T6320 サーバーモジュール設置マニュアル』を参照してください。

5. モジュラーシステムシャーシからサーバーモジュールを取り外し、ジャンパを取り外します。

手順 1 と同様に、ILOM または ALOM CMT コマンドを使用して取り外すための準備を行い、青色の取り外し可能 LED が点灯していることを確認します。これは、ブレードを安全に取り外せることを示しています。

6. サーバーモジュールを閉じて、モジュラーシステムシャーシにこれを取り付けてから、サーバーモジュールを起動します。

この手順については、『Sun Blade T6320 サーバーモジュール設置マニュアル』を参照してください。

第2章

ホストの管理

この章では、ほかのプラットフォーム上の ILOM に共通するプロパティを補足する、Sun Blade T6320 サーバーモジュールで使用可能な ILOM 機能について説明します。この章では、特に /HOST 名前空間のプロパティについて説明します。この章は、次の節で構成されています。

- 5 ページの「リモートコントロールの管理」
 - 9 ページの「ホスト情報の表示と、エラー状況に関するシステムポリシーの設定」
 - 13 ページの「診断の管理と POST」
 - 16 ページの「システムユーザーの対話の管理」
-

リモートコントロールの管理

リモートコントロールのプロパティを使用すると、ILOM が起動を処理する方法を指定できます。起動モード (bootmode) プロパティを使用すると、サーバーが起動時に使用するデフォルトの方法を上書きできます。この機能は、スクリプトや類似のタスクを使用して OpenBoot 変数を設定することで、適切ではない可能性がある特定の OpenBoot 設定または Logical Domains (LDoms) 設定を上書きする場合に便利です。

たとえば、OpenBoot 設定が破損した場合に、bootmode state プロパティを reset_nvram に設定して、サーバーを出荷時のデフォルトの OpenBoot 設定にリセットすることができます。

Sun の保守作業員から、問題の解決に bootmode script プロパティを使用するように指示される場合があります。完全なスクリプトには、主にデバッグ用に用意されている、マニュアルには記載されていない機能があります。

bootmode は、OpenBoot 設定または LDOMs 設定に関する問題を修正するために使用されることを目的としているため、bootmode はシングルブートでのみ有効です。また、管理者が bootmode state プロパティを設定したまま忘れることを防止するため、bootmode state プロパティが設定されてから 10 分以内にホストがリセットされないと、bootmode state プロパティが期限切れになります。

プロパティは、ILOM コマンド行インタフェース (CLI) または Web インタフェースを使用して設定できます。

- 6 ページの「CLI を使用して、ホストの起動モードの構成を管理する」
- 7 ページの「CLI を使用して、ホストの起動モードのスクリプトを管理する」
- 7 ページの「CLI を使用して、ホストのリセット時の起動モードの動作を変更する」
- 8 ページの「CLI を使用して、ホストの起動モードの有効期限を表示する」
- 8 ページの「Web インタフェースを使用して、リモートコントロール構成設定を変更する」

▼ CLI を使用して、ホストの起動モードの構成を管理する

- -> プロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
-> set /HOST/bootmode config=value
```

config プロパティには、Logical Domains ソフトウェアを使用して SP にダウンロードされた名前付き論理ドメイン構成などの *configname* 値を指定します。

たとえば、ldm-set1 という名前の論理ドメイン構成を作成した場合は、次のように指定します。

```
-> set /HOST/bootmode config=ldm-set1
```

起動モードの config を出荷時のデフォルト構成に戻すには、factory-default を指定します。

次に例を示します。

```
-> set /HOST/bootmode config=factory-default
```

注 - /HOST/bootmode config="" を設定すると、ILOM は config の値を空に設定します。

▼ CLI を使用して、ホストの起動モードのスク립トを管理する

- -> プロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
-> set /HOST/bootmode script=value
```

この場合、script は、ホストサーバーの OpenBoot PROM ファームウェアの起動方法を制御します。現在の /HOST/bootmode 設定には影響を与えません。
value には、最大 64 バイトの長さまで指定できます。/HOST/bootmode 設定を指定して、同じコマンド内でスク립トを設定できます。
次に例を示します。

```
-> set /HOST/bootmode state=reset_nvram script="setenv diag-switch? true"
```

サーバーをリセットしたあとに OpenBoot PROM がスク립トに格納されている値を読み取ると、OpenBoot PROM 変数 diag-switch? はユーザーが要求した値 true に設定されます。

注 - /HOST/bootmode script="" を設定すると、ILOM は script の値を空に設定します。

▼ CLI を使用して、ホストのリセット時の起動モードの動作を変更する

/HOST/bootmode state プロパティは、OpenBoot の非揮発性ランダムアクセスメモリー (NVRAM) 変数の使用方法を制御します。/HOST/bootmode を state=reset_nvram に設定すると、次にリセットしたときに、OpenBoot NVRAM 変数がデフォルト設定に変更されます。

- -> プロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
-> set /HOST/bootmode state=value
```

value は、次のいずれかの値です。

- normal - 次のリセット時に、現在の NVRAM 変数の設定を維持します。
- reset_nvram - 次のリセット時に、OpenBoot 変数をデフォルト設定に戻します。

注 – 次回サーバーをリセットしたあと、または 10 分後に、state=reset_nvram の値は normal に戻ります (8 ページの「[CLI を使用して、ホストの起動モードの有効期限を表示する](#)」を参照)。config プロパティおよび script プロパティが期限切れになることはなく、次にサーバーをリセットしたとき、または手動で文字列を "" に設定したときにクリアされます。

▼ CLI を使用して、ホストの起動モードの有効期限を表示する

- -> プロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
-> show /HOST/bootmode expires
Properties:
    expires = Thu Oct 18 18:24:16 2007
```

▼ Web インタフェースを使用して、リモートコントロール構成設定を変更する

ILOM では、サーバーモジュールのファームウェア環境を構成するいくつかの方法を提供します。起動モードの構成には、次の 4 つの要素があります。

- 状態
- 有効期限
- スクリプト
- LDoms 構成

ABOUT

REFRESHLOG OUT

Role (User): Administrator (root) SP Hostname : SUNSP00144F3F8CAF

Sun™ Integrated Lights Out Manager

Sun™ Microsystems, Inc.

System Information

System Monitoring

Configuration

User Management

Remote Control

Maintenance

Remote Power Control

Diagnostics

Host Control

Boot Mode Settings

Keyswitch

Boot Mode

Configure boot mode settings. Select an option for state, either Normal or Reset_nvram. Enter the boot script and LDOM configuration.

State:

Expiration Date: Tue Jan 19 03:14:07 2038

Script:

LDOM Config:

1. ILOM Web インタフェースに管理者 (root) としてログインし、Web インタフェースを表示します。
2. 「Remote Control (リモートコントロール)」->「Boot Mode Settings」を選択します。
3. 必要に応じて、「Boot Mode」の「State」を選択します。
4. 「Expiration Date」が表示されます。
5. 必要に応じて、起動スクリプトを指定します。
6. 必要に応じて、LDoms 構成ファイルを指定します。
7. 「Save (保存)」をクリックします。

ホスト情報の表示と、エラー状況に関するシステムポリシーの設定

システム構成およびファームウェアのバージョン情報を表示するには、ホスト情報プロパティを使用します。

- [10 ページの「CLI を使用して、ホストの MAC アドレスを表示する」](#)

- 10 ページの「CLI を使用して、ホストの OpenBoot のバージョンを表示する」
- 10 ページの「CLI を使用して、ホストの POST のバージョンを表示する」
- 11 ページの「CLI を使用して、ウォッチドッグタイマーが期限切れになったときのホストの動作を決定する」
- 11 ページの「CLI を使用した診断中に、エラーが検出されたときのホストの動作を指定する」
- 12 ページの「Web インタフェースを使用して、ホスト制御機能を表示および構成する」

▼ CLI を使用して、ホストの MAC アドレスを表示する

/HOST macaddress プロパティは、システムソフトウェアによって自動的に構成されるため、設定または変更はできません。値はサーバーのシステム構成カード (SCC PROM) から読み取られて識別され、ILOM にプロパティとして格納されます。

/HOST macaddress は、net0 ポートの MAC アドレスです。各追加ポートの MAC アドレスは、/HOST macaddress から増分されます。たとえば、net1 は /HOST macaddress に 1 を追加した値と同じです。

- このプロパティの現在の設定を表示するには、次のコマンドを入力します。

```
-> show /HOST macaddress
```

▼ CLI を使用して、ホストの OpenBoot のバージョンを表示する

/HOST obp_version プロパティを使用すると、ホストの OpenBoot のバージョンに関する情報が表示されます。

- このプロパティの現在の設定を表示するには、次のコマンドを入力します。

```
-> show /HOST obp_version
```

▼ CLI を使用して、ホストの POST のバージョンを表示する

/HOST post_version プロパティを使用すると、ホストの POST のバージョンに関する情報が表示されます。

- このプロパティの現在の設定を表示するには、次のコマンドを入力します。

```
-> show /HOST post_version
```

▼ CLI を使用して、ウォッチドッグタイマーが期限切れになったときのホストの動作を決定する

/HOST autorestart プロパティを使用すると、ILOM が Solaris ウォッチドッグタイマーの期限切れをどのように処理するかを指定できます。

- このプロパティを設定するには、次のコマンドを入力します。

```
-> set /HOST autorestart=value
```

value は、次のいずれかに設定できます。

- none – ILOM は、警告を発行する以外の処理を行いません。
- reset – ILOM は、Solaris ウォッチドッグタイマーが期限切れになったとき、システムのリセットを試行します。
- dumpcore – ILOM は、ウォッチドッグタイマーが期限切れになったとき、OS のコアダンプを強制的に試行します。

デフォルト値は、reset です。

▼ CLI を使用した診断中に、エラーが検出されたときのホストの動作を指定する

/HOST autorunonerror プロパティを使用すると、システム診断によるエラーの検出後、ホストが起動を続行するかどうかを指定できます。

- このプロパティを設定するには、次のコマンドを入力します。

```
-> set /HOST autorunonerror=value
```

value は、次のいずれかに設定できます。

- false – エラーが検出されると、システムは起動を停止します。
- true – エラーの検出後、システムは起動の続行を試みます。

デフォルト値は、false です。

▼ Web インタフェースを使用して、ホスト制御機能を表示および構成する

この手順では、さまざまな種類のホスト情報を表示および構成する方法について説明します。

ILOM では、ホスト制御機能を表示または構成するいくつかの方法を提供します。ホスト制御には、次の 6 つの要素があります。

- MAC アドレス
- OpenBoot のバージョン
- POST のバージョン
- HOST の状態
- エラー時の自動実行
- 自動再起動ポリシー (ウォッチドッグタイマー)

The screenshot shows the Sun Integrated Lights Out Manager (ILOM) web interface. At the top, there is a header bar with 'ABOUT', 'REFRESH', and 'LOG OUT' buttons. Below the header, the user role is 'Administrator (root)' and the SP Hostname is 'SUN5P00144F3F8CAF'. The main title is 'Sun™ Integrated Lights Out Manager'. A navigation menu includes 'System Information', 'System Monitoring', 'Configuration', 'User Management', 'Remote Control', and 'Maintenance'. Under 'Remote Control', there are sub-links: 'Remote Power Control', 'Diagnostics', 'Host Control', 'Boot Mode Settings', and 'Keyswitch'. The 'Host Control' page is active, displaying the following information:

Host Control

View and configure the host control information. Auto Run on Error determines whether the host should continue to boot in the event of a non-fatal POST error. Auto Restart Policy determines what action the Service Processor should take when it discovers the host is hung.

MAC Address: 00:14:4f:3f:8c:a6

OBP Version: OBP ***n2 build_100 PROTOTYPE BUILD*** 2007/05/16 18:19 [stacie obp #0]

POST Version: Sun Fire[™] Huron POST 4.x.0.n2.build_100 2007/05/16 19:23

Post Status: OS Running

Auto Run On Error: False (dropdown menu)

Auto Restart Policy: Reset (dropdown menu)

Save (button)

1. ILOM Web インタフェースに管理者 (root) としてログインし、Web インタフェースを表示します。
2. 「Remote Control (リモートコントロール)」->「Host Control」を選択します。
3. MAC アドレスが表示されます。

4. OpenBoot のバージョンが表示されます。
5. POST のバージョンが表示されます。
6. 必要に応じて、「Auto Run On Error」の値を選択します。
7. 必要に応じて、「Auto Restart Policy」の値を選択します。
8. 「Save (保存)」をクリックします。

診断の管理と POST

診断制御プロパティを使用すると、ホストサーバー上でエラーが発生した場合の ILOM の動作方法を指定できます。

ILOM は、次の診断システムインタフェースプロパティを使用します。

- [13 ページの「CLI を使用して、診断のレベルを指定する」](#)
- [14 ページの「CLI を使用して、診断モードを変更する」](#)
- [14 ページの「CLI を使用して、診断トリガーの条件を指定する」](#)
- [15 ページの「CLI を使用して、診断出力の冗長性の量を選択する」](#)
- [15 ページの「Web インタフェースを使用して、診断設定を管理する」](#)

▼ CLI を使用して、診断のレベルを指定する

/HOST/diag level プロパティを使用すると、診断が使用可能な場合に実行される診断テストのレベルを制御できます。

- -> プロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
-> set /HOST/diag level=value
```

value は、次のいずれかの値です。

- min — 最小レベルの診断を実行してシステムを検証します。
 - max — 最大設定の診断を実行してシステムの健全性を完全に検証します。
- デフォルト値は、max です。

▼ CLI を使用して、診断モードを変更する

/HOST/diag mode プロパティを使用すると、診断を使用可能にするかどうかを制御し、使用可能にする診断モードを指定できます。

- -> プロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
-> set /HOST/diag mode=value
```

value は、次のいずれかの値です。

- off — どのような診断も実行しません。
- normal — 診断を実行します。
- service — 保守技術者による診断を実行します。これは、/HOST/diag trigger=all-resets、/HOST/diag verbosity、/HOST/diag level=max の事前設定値を使用する場合と同等の機能です。/HOST/diag mode=service を設定すると、set /SYS keyswitch_state=diag コマンドを実行した場合と同じ処理が行われます。

デフォルト値は、normal です。

▼ CLI を使用して、診断トリガーの条件を指定する

/HOST/diag trigger プロパティを使用すると、診断が使用可能な場合に POST が実行される条件を制御できます。

- -> プロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
-> set /HOST/diag trigger=value
```

value には、次のいずれかの値、またはその組み合わせを引用符で囲んで指定します。

- user-reset — システムのリセット時に診断を実行します。
- error-reset — システムをリセットして回復する必要がある致命的エラーが発生した場合に診断を実行します。
- power-on-reset — システムの電源投入時に診断を実行します。
- all-resets — どのようなサーバーリセットでも診断を実行します。
- none — 診断をスキップします。

デフォルト値は、all-resets です。

デフォルト値は、power-on-reset と error-reset の組み合わせです。

次に例を示します。

```
-> set /HOST/diag trigger="user-reset power-on-reset"
Set 'trigger' to 'user-reset power-on-reset'
-> show /HOST/diag trigger
Properties:
    trigger = user-reset power-on-reset

Commands:
    set
    show
```

▼ CLI を使用して、診断出力の冗長性の量を選択する

診断が使用可能な場合は、/HOST/diag verbosity プロパティを使用すると、POST 診断からの出力の冗長性レベルを指定できます。

- -> プロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
-> set /HOST/diag verbosity=value
```

value は、次のいずれかの値です。

- none — 障害が検出されないかぎり、診断の実行時にシステムコンソールには出力が表示されません。
- min — 診断で、制限された量の出力がシステムコンソールに表示されます。
- max — 診断で、実行されている各テストの名前と結果を含む完全な出力がシステムコンソールに表示されます。
- normal — 診断で、適度な量の出力がシステムコンソールに表示されます。
- debug — 診断で、テストされているデバイスと各テストのデバッグ出力を含む広範囲なデバッグの出力がシステムコンソールに表示されます。

デフォルト値は、normal です。

▼ Web インタフェースを使用して、診断設定を管理する

この手順では、診断設定を表示および構成する方法について説明します。

ILOM では、診断を表示または構成するいくつかの方法を提供します。ホスト制御には、次の 4 つの要素があります。

- トリガー
- 冗長性
- レベル

■ モード

ABOUT REFRESH LOG OUT

Role (User): Administrator (root) SP Hostname : SUNSP00144F3F8CAF

Sun™ Integrated Lights Out Manager

Sun™ Microsystems, Inc.

System Information System Monitoring Configuration User Management Remote Control Maintenance

Remote Power Control Diagnostics Host Control Boot Mode Settings Keyswitch

Diagnostics

Select the level of embedded diagnostics to run on the host during start up. The Trigger contains all possible states to cause diagnostics to be run. The Verbosity level will define how much information will be given. The Update Mode contains all the possible OPS modes specified to POST.

Trigger: All Resets

Verbosity: Normal

Level: Max

Current Mode: off

Update Mode: Off

Save

1. ILOM Web インタフェースに管理者 (root) としてログインし、Web インタフェースを表示します。
2. 「Remote Control (リモートコントロール)」->「Diagnostics」を選択します。
3. 必要に応じて、「Trigger」の値を選択します。
4. 必要に応じて、「Verbosity」の値を選択します。
5. 必要に応じて、「Level」の値を選択します。
6. 「Current Mode」が表示されます。
7. 必要に応じて、「Update Mode」の値を選択します。

システムユーザーの対話の管理

システムユーザープロパティを使用すると、ILOM によるホストサーバーの識別方法およびホストサーバーとの対話方法をカスタマイズできます。

- 17 ページの「システムでブレーク信号の送信を有効にするか、または CLI を使用してコアダンプを強制実行する」
- 17 ページの「CLI を使用して、ホストの状態情報を表示する」

▼ システムでブレーク信号の送信を有効にするか、または CLI を使用してコアダンプを強制実行する

set /HOST send_break_action コマンドを使用すると、OpenBoot PROM プロンプト (ok) に進むことを選択できるメニューがサーバーで表示されます。kmdb デバッガを設定している場合は、send_break_action=break を指定すると、サーバーはデバッグモードになります。強制的なコアダンプを実行するには、send_break_action=dumpcore を指定します。

- -> プロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
-> set /HOST send_break_action=value
```

value は、次のいずれかの値です。

- break — ホストに切断を送信します。
- dumpcore — 管理対象のシステム OS のパニックコアダンプを強制的に行います。

▼ CLI を使用して、ホストの状態情報を表示する

show /HOST status コマンドを使用すると、ホストサーバーのプラットフォーム ID および状態に関する情報を表示できます。

- -> プロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
-> show /HOST status
```

コマンドによって、次のような情報が返されます。

第3章

サービスプロセッサの管理

この章では、ほかのプラットフォーム上の ILOM に共通する一連のプロパティを補足する、Sun Blade T6320 サーバーモジュールで利用できる ILOM プロパティについて説明します。この章では、特に /SP 名前空間のプロパティについて説明します。この章は、次の節で構成されています。

- [19 ページの「顧客情報の格納」](#)
- [21 ページの「出荷時のデフォルトへのサービスプロセッサ設定の変更」](#)
- [22 ページの「コンソールのエスケープ文字の変更」](#)
- [23 ページの「構成ポリシーの設定の変更」](#)
- [28 ページの「SSH サーバーの設定の管理」](#)

顧客情報の格納

ILOM を使用すると、インベントリ制御またはサイトの資源管理などを目的として、SP および FRU PROM に情報を格納できます。

- [19 ページの「CLI を使用して、顧客の FRU データを変更する」](#)
- [20 ページの「CLI を使用して、システム識別情報を変更する」](#)
- [20 ページの「Web インタフェースを使用して、顧客の識別情報を変更する」](#)

▼ CLI を使用して、顧客の FRU データを変更する

/SP customer_frudata プロパティを使用すると、FRU PROM に情報を格納できます。

- -> プロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
-> set /SP customer_fru data="data"
```

注 – データ文字列 ("data") は、引用符で囲む必要があります。

▼ CLI を使用して、システム識別情報を変更する

/SP system_identifier プロパティを使用すると、顧客の識別情報を格納できます。

- -> プロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
-> set /SP system_identifier="data"
```

▼ Web インタフェースを使用して、顧客の識別情報を変更する

The screenshot shows the Sun Integrated Lights Out Manager (ILOM) web interface. At the top, there is a header bar with "ABOUT" on the left and "REFRESH" and "LOG OUT" on the right. Below the header, it displays "Role (User): Administrator (root)" and "SP Hostname : SUNSP00144F3F8CAF". The main title is "Sun™ Integrated Lights Out Manager". On the right side of the header, there is a Java logo and "Sun Microsystems, Inc.". Below the header, there is a navigation bar with tabs: "System Information", "System Monitoring", "Configuration", "User Management", "Remote Control", and "Maintenance". Under "System Information", there are sub-tabs: "Versions", "Session Time-Out", "Components", "Fault Management", and "Identification Information". The "Identification Information" tab is selected. The main content area is titled "Identification Information" and contains the instruction "Configure identification information." Below this, there are three input fields: "Customer FRU Data:" with the value "my fru data", "SP Hostname:" with the value "SUNSP00144F3F8CAF", and "SP System Identifier:" with the value "my system". At the bottom left of the form is a "Save" button.

ILOM を使用すると、FRU および SP に情報を格納できます。

1. ILOM Web インタフェースに管理者 (root) としてログインし、Web インタフェースを表示します。
2. 「System Information (システム情報)」-->「Identification Information」を選択します。
3. 必要に応じて、「Customer FRU Data」フィールドを編集します。
4. 必要に応じて、「SP Hostname」を編集します。
5. 必要に応じて、「SP System Identifier」フィールドを編集します。
6. 「Save (保存)」をクリックします。

出荷時のデフォルトへのサービスプロセッサ設定の変更

この節では、サービスプロセッサの設定を出荷時のデフォルトに戻す方法について説明します。root のパスワードの設定を出荷時のデフォルトに戻す方法の詳細は、[2 ページの「パスワードを出荷時のデフォルトにリセット」](#)を参照してください。

- [21 ページの「CLI を使用して、サービスプロセッサの設定を出荷時のデフォルト値にリセットする」](#)
- [22 ページの「Web インタフェースを使用して、サービスプロセッサの設定を出荷時のデフォルト値にリセットする」](#)

▼ CLI を使用して、サービスプロセッサの設定を出荷時のデフォルト値にリセットする

set reset_to_defaults コマンドを使用すると、すべての ILOM 構成プロパティを出荷時のデフォルト値に戻すことができます。all オプションを指定すると、ILOM 構成とすべてのユーザー情報が出荷時のデフォルト値に戻されます。

1. -> プロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
-> set /SP reset_to_defaults=value
```

value は、次のいずれかに設定できます。

- none — 変更を行いません。
- all — ユーザーデータベースをリセット (クリア) します。

2. 新しいプロパティ値が有効になるように、サービスプロセッサをリセットします。

▼ Web インタフェースを使用して、サービスプロセッサの設定を出荷時のデフォルト値にリセットする

The screenshot shows the Sun Integrated Lights Out Manager (ILOM) web interface. At the top, there is a header bar with 'ABOUT' on the left and 'REFRESH' and 'LOG OUT' on the right. Below the header, the user role is 'Administrator (root)' and the SP Hostname is 'SUNSP00144F3F8CAF'. The main title is 'Sun™ Integrated Lights Out Manager'. Below the title, there is a navigation bar with tabs: 'System Information', 'System Monitoring', 'Configuration', 'User Management', 'Remote Control', and 'Maintenance'. The 'Configuration' tab is selected. Under the 'Configuration' tab, there are sub-tabs: 'Firmware Upgrade', 'Reset SP', and 'Configuration Management'. The 'Configuration Management' sub-tab is selected. The main content area is titled 'Configuration Management' and contains the text: 'Manage the system configuration on this page. Clicking *Reset Defaults* will restore the system configuration to factory settings.' Below this text, there is a 'Reset Defaults:' label followed by a dropdown menu showing 'None'. At the bottom of the form, there is a 'Reset Defaults' button.

1. ILOM Web インタフェースに管理者 (root) としてログインし、Web インタフェースを表示します。
2. 「Maintenance (保守)」-->「Configuration Management」を選択します。
3. 「Reset Defaults」の値を選択します。
4. 「Save (保存)」をクリックします。

コンソールのエスケープ文字の変更

この節では、エスケープ文字として使用する新しい文字の組み合わせの作成について説明します。

- [23 ページの「CLI を使用して、コンソールのエスケープ文字を変更する」](#)

▼ CLI を使用して、コンソールのエスケープ文字を変更する

/SP/console escapechars プロパティを使用すると、システムコンソールセッションから ILOM に切り替えるエスケープ文字シーケンスを変更することができます。

- -> プロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
-> set /SP/console escapechars=xx
```

xx は、任意のプリント可能な文字です。

シーケンスは、2 文字に制限されています。デフォルトの値は、#. (ハッシュ記号とピリオド) です。シーケンスはカスタマイズできます。

注 – エスケープ文字の変更は、現在アクティブなコンソールセッションでは有効になりません。

構成ポリシーの設定の変更

この節では、ILOM を使用する構成システムポリシーの管理について説明します。.

- [24 ページの「CLI を使用して、ユーザーデータベースのバックアップを使用不可または再度使用可能にする」](#)
- [24 ページの「CLI を使用して、ホストサーバーの電源投入を使用不可または再度使用可能にする」](#)
- [25 ページの「CLI を使用して、電源投入の遅延を使用不可または再度使用可能にする」](#)
- [27 ページの「Web インタフェースを使用して、構成ポリシーの設定を管理する」](#)

▼ CLI を使用して、ユーザーデータベースのバックアップを使用不可または再度使用可能にする

/SP/policy BACKUP_USER_DATA プロパティを使用すると、ILOM 上のローカルユーザーデータベース (ユーザー、パスワード、およびアクセス権情報など) をバックアップするかどうかを指定できます。このプロパティが `enabled` に設定されている場合は、このデータはシステムの取り外し可能なシステム構成カード (SCC PROM) にバックアップされます。

- -> プロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
-> set /SP/policy BACKUP_USER_DATA=value
```

`value` は、次のいずれかに設定できます。

- `enabled` - ユーザーデータベースを SCC にバックアップします。
- `disabled` - バックアップしません。

デフォルト値は、`enabled` です。

たとえば、ILOM 上のローカルユーザーデータベースをバックアップするには、次のコマンドを入力します。

```
-> set /SP/policy BACKUP_USER_DATA=enabled
```

▼ CLI を使用して、ホストサーバーの電源投入を使用不可または再度使用可能にする

サーバーの電源が切れている場合でも、ホストサーバーに電力が供給されるとすぐに ILOM は動作します。まずホストサーバーに電力が供給されると、ILOM は実行を開始しますが、サーバーは電源を入れるまで起動しません。

/SP/policy HOST_LAST_POWER_STATE プロパティを使用すると、予期しない電源異常のあとのサーバーモジュールの動作を制御することができます。外部電源が回復すると、ILOM サービスプロセッサは自動的に動作を開始します。通常は、ILOM を使用して電源を入れないかぎり、ホストの電源は入りません。

ILOM は、サーバーの現在の電源状態を非揮発性の記憶領域に記録します。HOST_LAST_POWER_STATE ポリシーが有効な場合、ILOM はホストを以前の電源状態に回復することができます。このポリシーは、電源障害発生時、またはサーバーを別の場所に物理的に移動する場合に役立ちます。

たとえば、ホストサーバーの動作中に電源が遮断された場合、/SP/policy HOST_LAST_POWER_STATE プロパティが disabled に設定されていると、ホストサーバーは電源の回復後も停止したままになります。/SP/policy HOST_LAST_POWER_STATE プロパティが enabled に設定されていると、電源の回復時にホストサーバーは再起動します。

- -> プロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
-> set /SP/policy HOST_LAST_POWER_STATE=enabled
```

このプロパティの値は次のとおりです。

- enabled - 電源の回復時に、サーバーは電源切断前の状態に戻ります。
- disabled - 電源が入っても、サーバーは停止したままになります。

デフォルト値は、disabled です。

このプロパティを有効にするには、/SP/policy HOST_POWER_ON_DELAY も同様に設定する必要があります。詳細は、[25 ページの「CLI を使用して、電源投入の遅延を使用不可または再度使用可能にする」](#)を参照してください。

/SP/policy HOST_AUTO_POWER_ON を使用すると、サービスプロセッサが起動されたときに、ホストの電源が自動的に入ります。このポリシーが enabled に設定されていると、サービスプロセッサは HOST_LAST_POWER_STATE を disabled に設定します。詳細は、[26 ページの「CLI を使用して、ホストの自動電源投入を使用不可または再度使用可能にする」](#)を参照してください。

▼ CLI を使用して、電源投入の遅延を使用不可または再度使用可能にする

/SP/policy HOST_POWER_ON_DELAY プロパティを使用すると、電源が自動的に入る前にサーバーモジュールを短時間待機させることができます。遅延は、1 ～ 5 秒のランダムな間隔です。サーバーの電源投入を遅延させると、主電源に対する電流サージを最小限に抑えることができます。このサーバーの電源投入の遅延は、電源異常後にラック内の複数のサーバーの電源を入れる場合に重要です。

このプロパティは、/SP/policy HOST_LAST_POWER_STATE が enabled に設定されている場合にのみ有効です。

- -> プロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
-> set /SP/policy HOST_POWER_ON_DELAY=value
```

value には、次の値を設定できます。

- enabled
- disabled

デフォルト値は、disabled です。

▼ CLI を使用して、ホストの自動電源投入を使用不可または再度使用可能にする

/SP/policy HOST_AUTO_POWER_ON プロパティを使用して、電力の供給時にサーバーモジュールの電源が自動的に投入されるかどうかを設定します。

このプロパティは、/SP/policy HOST_AUTO_POWER_ON が enabled に設定されている場合にのみ有効です。

- -> プロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
-> set /SP/policy HOST_AUTO_POWER_ON=value
```

value には、次の値を設定できます。

enabled - 電力が供給されると、サーバーモジュールの電源が自動的に投入されます。

disabled - サーバーモジュールの電源を投入するには、ILOM コマンドまたは ALOM CMT コマンドを実行する必要があります。

デフォルト値は、disabled です。この値が enabled に設定されていると、サービスプロセッサは HOST_LAST_POWER_STATE を disabled に設定します。

▼ Web インタフェースを使用して、構成ポリシーの設定を管理する

The screenshot shows the Sun Integrated Lights Out Manager (iLOM) Web Interface. At the top, it displays the user role as Administrator (root) and the SP Hostname as SUNSP00144F3F8CAF. The main navigation bar includes tabs for System Information, System Monitoring, Configuration, User Management, Remote Control, and Maintenance. The Configuration tab is selected, and the Policy sub-tab is active. The page title is "Policy Configuration". Below the title, there is a brief instruction: "Configure system policies from this page. To modify a policy, select the radio button next to that policy, then choose Enable or Disable from the Action drop down list." The main content area is titled "Service Processor Policies" and contains a table with four rows of policies. Each row has a radio button for selection, a description, and a status column.

	Description	Status
☐	Auto power-on host on boot (enabling this policy disables Set host power to last power state policy)	Disabled
☐	Set host power to last power state on boot (enabling this policy disables Auto power-on host policy)	Disabled
☐	Set to delay host power on	Disabled
☐	Set to enable backing up of user account info to SCC card	Enabled

1. iLOM Web インタフェースに管理者 (root) としてログインし、Web インタフェースを表示します。
2. 「Configuration (設定)」-->「Policy」を選択します。
3. 変更するポリシーの「Policy」ラジオボタンをクリックします。
4. 「Actions」の値を選択して、選択した処理 (「Enabled (有効)」または「Disabled (無効)」) を適用します。

DHCP サーバーの IP アドレスの表示

サービスプロセッサによって要求された動的 IP アドレスを提供した DHCP サーバーの IP アドレスを表示するには、dhcp_server_ip プロパティを参照します。

- show /SP/network と入力して、dhcp_server_ip プロパティを表示します。

```
-> show /SP/network

/SP/network
Targets:

Properties:
  commitpending = (Cannot show property)
  dhcp_server_ip = 10.8.31.5
  ipaddress = 10.8.31.188
  ipdiscovery = dhcp
  ipgateway = 10.8.31.248
  ipnetmask = 255.255.252.0
  macaddress = 00:14:4F:7E:83:4F
  pendingipaddress = 10.8.31.188
  pendingipdiscovery = dhcp
  pendingipgateway = 10.8.31.248
  pendingipnetmask = 255.255.252.0
  state = enabled

Commands:
  cd
  set
  show
```

SSH サーバーの設定の管理

- 28 ページの「CLI を使用して、SSH 鍵のタイプを変更する」
- 29 ページの「CLI を使用して、新しい SSH 鍵セットを生成する」
- 29 ページの「CLI を使用して、SSH サーバーを再起動する」
- 29 ページの「CLI を使用して、SSH サービスを使用可能または使用不可にする」
- 30 ページの「Web インタフェースを使用して、SSH サーバーの設定を管理する」

▼ CLI を使用して、SSH 鍵のタイプを変更する

set /SP/services/ssh generate_new_key_type コマンドを使用すると、使用しているサーバーで生成された Secure Shell (SSH) ホスト鍵のタイプを変更できます。タイプの変更に後、set /SP/services/ssh generate_new_key_action コマンドを使用して、新しいタイプの新しい鍵セットを生成する必要があります。

- -> プロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
-> set /SP/services/ssh generate_new_key_type=value
```

value には、rsa または dsa を指定できます。

▼ CLI を使用して、新しい SSH 鍵セットを生成する

set /SP/services/ssh generate_new_key_action コマンドを使用すると、新しい Secure Shell (SSH) ホスト鍵のセットを生成できます。

- -> プロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
-> set /SP/services/ssh generate_new_key_action=true
```

▼ CLI を使用して、SSH サーバーを再起動する

set /SP/services/ssh generate_new_key_action コマンドを使用して新しいホスト鍵を生成したあとで、set /SP/services/ssh restart_sshd_action コマンドを使用して SSH サーバーを再起動できます。これによって、サーバーの専用データ構造がメモリーにふたたび読み込まれます。

- -> プロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
-> set /SP/services/ssh restart_sshd_action=true
```

▼ CLI を使用して、SSH サービスを使用可能または使用不可にする

set コマンドで /SP/services/ssh state プロパティを使用すると、SSH サービスを使用可能または使用不可にすることができます。SSH サービスが使用不可になっている場合、ILOM Web インタフェースを使用してふたたび使用可能にすることができます。

- -> プロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
-> set /SP/services/ssh state=value
```

value には、次の値を設定できます。

- enabled
- disabled

デフォルト値は、enabled です。

▼ Web インタフェースを使用して、SSH サーバーの設定を管理する

1. ILOM Web インタフェースに管理者 (root) としてログインし、Web インタフェースを表示します。
2. 「Configuration (設定)」-->「SSH Server Settings」を選択します。
3. 「SSH Server」プルダウンメニューから処理を選択します。
 - 「Enable the SSH server」
 - 「Disable the SSH server」
 - 「Restart the SSH server」
4. 「Generate RSA Key」または「Generate DSA Key」をクリックして、新しい鍵のタイプと新しい鍵を生成します。

新しい鍵を生成した場合は、新しい鍵を有効にするために SSH サーバーを再起動する必要があります。

注 – SSH サーバーを再起動または使用不可にすると、SSH 上で実行している CLI セッションは即時に終了します。

ABOUT

REFRESH

LOG OUT

Role (User): Administrator (root) SP Hostname : SUNSP00144F3F8CAF

Sun™ Integrated Lights Out Manager



Sun Microsystems, Inc.

System Information

System Monitoring

Configuration

User Management

Remote Control

Maintenance

System Management Access

Alert Management

Network

Serial Port

Clock Settings

Syslog

SMTP Client

Policy

Web Server

SNMP

SSL Certificate

SSH Server

SSH Server Settings

Configure Secure Shell server access and key generation. Newly generated keys are not used until the SSH server is restarted. When the SSH server is restarted or disabled, any CLI sessions running over SSH will be immediately terminated.

SSH Server:

Enabled

RSA Key:

Generate RSA Key

RSA Fingerprint:

e1:92:e7:b2:dc:74:95:e1:7e:f9:18:3a:ab:54:7e:16

RSA Key Length:

1024 bits

RSA Public Key:

AAAAB3NzaC1yc2EAAAABIwAAAIEAERT9pFfm3sUg78KI7Qr
+1ws1mbwv15S01/hmPTj++1jW1ebI8+u+jvHln3z1hOROURRJC
V9KymcJnRWe1jWRjmc+UkIJWUez9xg7Mi jfNa jgHQbnwh61
6FrSDhpcRV0kNS7L8yDT58HgIIIny6pprakG7Yd9cHek221uO
ErEgUVU=

DSA Key:

Generate DSA Key

DSA Fingerprint:

d7:03:28:55:cc:cc:4f:c5:06:99:da:7b:ec:4c:77:1a

DSA Key Length:

1024 bits

DSA Public Key:

AAAAB3NzaC1kc3MAAACBAIbgDF+t1ghTF1L1tvSHN4ELU5ZQ
m0KUL7BdKf0iqtYwqo6fupvBsB1k29UFVJAP2FEnw6kA0
GgFN2UC3yzr1MtLw4Ufg00bhcZvLoI0Sg8ETZGypLL1H8OPo
xJzGbtqknKxSALey+GWF4WHR1QOo4abknA3AY+jzT1ehcnRD
AAAFQDAvfDKEn+3/xqh34ThFCq7YhnxHwAAAB5+aiYIHhe0
GgR8SG19HvDDD1cC70p0x9irFR/rIUV011ZCPcoCVJ6663E6q
k+PvHtoFS5J4Op1XhMauLo6uxH6AatLgHK6bR7zrjM1D6wZED
IdFXt4YTyEa8+uoRQ1KoorDggKByOq+g71s+uW/A5oEcVKFy
QcKeRpiYQI+6gmKR/QAAAIBzt6knhe1RcxyA0dtIw8APlnHr
L3cu7Zi10Zn1rkpc7IOo21UUP05Jf21MEYHE8Qc/4gxjZvnp
PHOCLmqwJjQMrmMizUheZGpMsIe9q2/qhET8UoBSQ9T0VaQ
qQhJr1r5jotcBDxRwHRIHF1IFEaptNsQiC+a865P8VY8PPUb
MQ==

仮想キースイッチの設定の管理

この章では、ほかのプラットフォーム上の ILOM に共通する一連のプロパティを補足する、Sun Blade T6320 サーバーモジュールで使用可能な ILOM プロパティについて説明します。この章では、特に /SYS 名前空間のプロパティについて説明します。

- 33 ページの「CLI を使用して、仮想キースイッチを制御する」
- 34 ページの「Web インタフェースを使用して、仮想キースイッチを制御する」

▼ CLI を使用して、仮想キースイッチを制御する

/SYS setkeyswitch_state プロパティを使用すると、システムの仮想キースイッチの位置を制御できます。

- -> プロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
-> set /SYS keyswitch_state=value
```

表 4-1 に、setkeyswitch_state プロパティに使用できる値を示します。デフォルト値は、normal です。

表 4-1 keyswitch_state の値

オプション	説明
normal	システムは、システム自体の電源を入れて、起動処理を開始できます。
stby	システムは、システム自体の電源を入れることができません。
diag	システムは、診断プロパティの事前設定値 (/HOST/diag level=max、/HOST/diag mode=normal、/HOST/diag verbosity=max) を使用してシステム自体の電源を入れ、全体の障害カバレッジを表示することができます。このオプションは、設定した診断プロパティの値よりも優先されます。
locked	システムは、システム自体の電源を入れることができます。ただし、フラッシュデバイスの更新、または /HOST send_break_action=break コマンドの使用は許可されません。

▼ Web インタフェースを使用して、仮想キースイッチを制御する

Web インタフェースを使用して、システムの仮想キースイッチの位置を制御できます。

The screenshot shows the Sun Integrated Lights Out Manager (ILOM) web interface. At the top, there's a header with 'ABOUT', 'REFRESH', and 'LOG OUT' buttons. Below the header, it displays 'Role (User): Administrator (root)' and 'SP Hostname : SUNSP00144F3F8CAF'. The main title is 'Sun™ Integrated Lights Out Manager'. On the right, there's a Java logo and 'Sun Microsystems, Inc.'. Below the title, there's a navigation bar with tabs: 'System Information', 'System Monitoring', 'Configuration', 'User Management', 'Remote Control', and 'Maintenance'. Under 'Remote Control', there's a sub-tab 'Keyswitch'. The main content area is titled 'Keyswitch' and 'Configure keyswitch'. It shows a 'Keyswitch:' label followed by a dropdown menu set to 'Normal'. There is a 'Save' button below the dropdown.

1. Web インタフェースに管理者 (root) としてログインし、Web インタフェースを表示します。
2. 「Remote Control (リモートコントロール)」 --> 「Keyswitch」を選択します。
3. 「Keyswitch」の状態の値を選択します。

4. 「Save (保存)」をクリックします。

付録 A

IPMI センサーのリファレンス

このサーバーモジュールには、多くの IPMI 準拠のセンサーおよびインジケータが装備されています。センサーは、電圧、温度範囲、およびコンポーネントの取り付けと取り外しが検出されたことを測定します。発光ダイオード (LED) などのインジケータは、保守が必要なときなど、サーバーの重要な状態を通知します。

この付録には、次の 2 つの表があります。

- 表 A-1 に、サーバーモジュールのセンサーを示します。
- 表 A-2 に、サーバーモジュールのインジケータを示します。

表 A-1 Sun Blade T6320 サーバーモジュールのセンサー

名前	パス	説明
V_+3V3_STBY	/SYS/MB/V_+3V3_STBY	3.3V のスタンバイ電圧しきい値センサー
V_+3V3_MAIN	/SYS/MB/V_+3V3_MAIN	3.3V の主電圧しきい値センサー
V_+12V0_MAIN	/SYS/MB/V_+12V0_MAIN	12V の主電圧しきい値センサー
V_VBAT	/SYS/SP/V_VBAT	電圧しきい値センサー
V_VDDIO	/SYS/MB/V_VDDIO	電圧しきい値センサー
T_AMB	/SYS/MB/T_AMB	周囲温度しきい値センサー
V_VCORE	/SYS/MB/V_VCORE	CPU コア電圧しきい値センサー
V_VMEML	/SYS/MB/V_VMEML	左分岐電圧しきい値センサー
V_VMEMR	/SYS/MB/V_VMEMR	右分岐電圧しきい値センサー
T_TCORE	/SYS/MB/CMP0/T_TCORE	コア上部温度センサー

表 A-1 Sun Blade T6320 サーバーモジュールのセンサー (続き)

名前	パス	説明
T_BCORE	/SYS/MB/CMP0/T_BCORE	コア下部温度センサー
BRn/CHn/Dn/T_AMB	/SYS/MB/CMP0/BRn/CHn/Dn/T_AMB	分岐 BRn (n は整数 0 ~ 3) で定義された DIMM 用の温度センサー、チャンネル CHn ($n = 0$ または 1)、DIMM Dn ($n = 0$ または 1)
HDDn/PRSNT	/SYS/HDDn/PRSNT	ハードディスク (0 ~ 3) の存在センサーと保守センサー

表 A-2 Sun Blade T6320 サーバーモジュールのインジケータ

名前	パス	説明
LOCATE	/SYS/LOCATE	位置特定インジケータ
ACT	/SYS/ACT	システム電源稼働インジケータ
SERVICE	/SYS/SERVICE	保守インジケータ
HDDn/SERVICE	/SYS/HDDn/SERVICE	ハードディスク (0 ~ 3) の保守インジケータ
HDDn/OK2RM	/SYS/HDDn/OK2RM	ハードディスク (0 ~ 3) の取り外し可能インジケータ
OK2RM	/SYS/OK2RM	ブレードの取り外し可能インジケータ
SERVICE	MB/CMP0/BRn/CHn/Dn/SERVICE	分岐 BRn (n は整数 0 ~ 3) で定義された DIMM 用の保守インジケータ、チャンネル CHn ($n = 0$ または 1)、DIMM Dn ($n = 0$ または 1)

ALOM CMT 互換シェル

ILOM では、互換シェルを使用して ALOM CMT コマンド行インタフェース (CLI) の一部の機能をサポートしています。ILOM と ALOM CMT には大きな違いがあります。この付録では、それらの違いについて説明します。この付録は、次の節で構成されています。

- [39 ページの「下位互換性の制限」](#)
 - [40 ページの「ALOM CMT 互換シェルの作成」](#)
 - [43 ページの「ILOM コマンドと ALOM CMT コマンドの比較」](#)
 - [50 ページの「ALOM CMT 変数と ILOM プロパティの比較」](#)
-

下位互換性の制限

下位互換性のシェルは ALOM CMT の一部の機能をサポートしますが、すべての機能をサポートするわけではありません。ILOM と ALOM CMT の重要な違いの一部についてここで説明します。

ILOM ネットワーク構成プロパティの構成手順に対する確定手順の追加

一部の ALOM CMT 変数 (ネットワーク構成変数、シリアルポート構成変数など) の値を変更すると、システムコントローラをリセットして変更を有効にする必要がありました。これに比べて、ILOM では、対応するプロパティの値を変更したあとでサービスプロセッサをリセットする必要はありません。



注意 – ILOM の場合、プロパティの値を変更してから SP をリセットすると、新しいプロパティの設定が失われます。

代わりに、ネットワーク構成プロパティを変更してから、ALOM 互換 CLI の場合は `setsc netsc_commit true` を、ILOM CLI の場合は `set /SP/network commitpending` を使用して、変更を確定します。シリアルポート構成プロパティを変更するには、最初に目的のプロパティを設定してから、ALOM 互換 CLI の `setsc ser_commit` か、ILOM CLI の `set /SP/serial/external commitpending` を使用して、変更を確定します。

たとえば、ALOM 互換 CLI を使用して静的 IP アドレスを設定するには、次のように入力します。

```
SC> setsc netsc_ipaddr xxx.xxx.xxx.xxx
SC> setsc netsc_commit true
```

ILOM CLI を使用して同じプロパティを設定するには、次のように入力します。

```
-> set /SP/network pendingipaddress=xxx.xxx.xxx.xxx
Set 'pendingipaddress' to 'xxx.xxx.xxx.xxx'
-> set /SP/network commitpending=true
Set 'commitpending' to 'true'
```

つまり、変更を有効にするには、その変更を確定する必要があります。

表 B-1 ALOM CMT の commit 変数と対応する ILOM プロパティ

ALOM CMT 変数	対応する ILOM プロパティ
netsc_commit	/SP/network commitpending
ser_commit	/SP/serial/external commitpending

ALOM CMT 互換シェルの作成

デフォルトでは、サーバーは ILOM シェルで操作するように設定されています。サーバーの管理に ALOM CMT コマンドと類似するコマンドを使用することが望ましい場合は、ALOM 互換シェルを作成できます。

▼ ALOM CMT 互換シェルを作成する

1. サービスプロセッサに root としてログオンします。

最初に電源を入れると、SP が起動して ILOM ログインプロンプトが表示されます。最初にログオンするときには、『Sun Blade T6320 サーバーモジュール設置マニュアル』の説明を参照してください。

2. admin という名前のユーザーを作成し、admin アカountの役割を Administrator に設定してから、CLI モードを alom に設定します。

Administrator の役割を持つユーザー admin がまだ作成されていない場合は、create および set コマンドを 1 行にまとめて実行することができます。

```
-> create /SP/users/admin role=Administrator cli_mode=alom
Creating user...
Enter new password: *****
Enter new password again: *****
Created /SP/users/admin
```

注 – 例の中のアスタリスクは、パスワードの入力時には表示されません。

Administrator の役割を持つユーザー admin がすでに存在している場合は、必要なのは CLI モードを alom に変更することだけです。

```
-> set /SP/users/admin cli_mode=alom
Set 'cli_mode' to 'alom'
```

3. admin アカountの作成が完了したら、root アカountをログアウトします。

```
-> exit
```

ILOM ログインプロンプトに戻ります。

4. ILOM ログインプロンプトから ALOM CLI シェルにログインします。

```
SUNSPxxxxxxxxxx login: admin
Password:
Waiting for daemons to initialize...

Daemons ready

Sun(TM) Integrated Lights Out Manager

Version 2.0.0.0

Copyright 2007 Sun Microsystems, Inc. All rights reserved.
Use is subject to license terms.

sc>
```

sc> プロンプトに、ALOM CMT 互換シェルを使用していることが示されます。

▼ ALOM CMT シェルとホストコンソールを切り替える

- ALOM CMT シェルからホストコンソールに切り替えるには、次のように入力します。

```
SC> console
host>
```

- コンソールから ALOM CMT シェルに切り替えるには、次のようにハッシュ記号とピリオドを入力します。

```
host> #.
SC>
```

▼ ILOM CLI に戻る

1. ALOM CMT 互換シェルをログアウトするには、次のように入力します。

```
sc> logout
```

ILOM ログインプロンプトが表示されます。

2. 通常は、admin アカウント以外のアカウント (root など) を使用して、ILOM CLI にログインします。

CLI モードの値が alom に設定されているかぎり、ILOM CLI には admin アカウントを使用できません。

ALOM CMT 互換シェルを使用すると、一部例外はありますが、ALOM CMT コマンドと類似するコマンドを使用できます。ALOM CMT 互換シェルは ILOM インタフェースであることを覚えておいてください。ILOM CLI と ALOM CMT 互換 CLI の比較については、[43 ページの「ILOM コマンドと ALOM CMT コマンドの比較」](#)で説明します。また、保守に関連する ALOM CMT 互換シェルコマンドについては、『Sun Blade T6320 Server Module Service Manual』を参照してください。

ILOM コマンドと ALOM CMT コマンドの比較

以降の表に、ALOM CMT とデフォルトの ILOM CLI のコマンドセットの比較を示します。表 B-2 には、サポートされている ALOM CMT コマンドオプションのみが記載されています。対応する ILOM プロパティが存在しない ALOM CMT コマンド行引数は、省略されています。ALOM CMT 互換シェルのコマンドセットでは、ALOM CMT でサポートされているコマンドおよび引数と非常によく似た同等のコマンドおよび引数が提供されています。また、保守に関連する ALOM CMT 互換シェルコマンドについては、『Sun Blade T6320 Server Module Service Manual』を参照してください。

注 – ALOM CMT 情報コマンドを表示すると、デフォルトでは、その出力が簡潔形式に制限されていますが、コマンドに `-v` フラグを指定することによってより詳細な出力が提供されます。ILOM の `show` コマンドには、簡潔出力形式がありません。常に、詳細出力が提供されます。

表 B-2 機能別 ALOM CMT シェルコマンド (対応する ILOM コマンドあり)

ALOM CMT コマンド	概要	対応する ILOM コマンド
構成コマンド		
password	現在のユーザーのログインパスワードを変更します。	set /SP/users/username <i>password</i>
restartssh	ssh-keygen コマンドによって生成された新しいホスト鍵が再ロードされるように、SSH サーバーを再起動します。	set /SP/services/ssh restart_sshd_action=true
setdate [[<i>mmdd</i>] <i>HHMM</i> <i>mmddHHMM</i> [<i>cc</i>] <i>yy</i>][<i>.SS</i>]	ALOM CMT の日付および時刻を設定します。	set /SP/clock datetime= <i>value</i>
setdefaults [-a]	すべての ALOM CMT 構成パラメータをデフォルト値にリセットします。-a オプションを指定すると、ユーザー情報が出荷時のデフォルト (1 つの admin アカウントのみ) にリセットされます。	set /SP reset_to_defaults= <i>configuration</i> set /SP reset_to_defaults=all
setkeyswitch [normal stby diag locked]	仮想キースイッチの状態を設定します。仮想キースイッチをスタンバイ (stby) に設定すると、サーバーの電源が切断されます。ホストサーバーの電源を切る前に、ALOM CMT によって電源切断の確認が求められます。	set /SYS keyswitch_state= <i>value</i>
setsc [<i>param</i>] [<i>value</i>]	指定した ALOM CMT パラメータに割り当てる値を設定します。	set <i>target</i> <i>property</i> = <i>value</i>
setupsc	対話型の構成スクリプトを実行します。このスクリプトでは、ALOM CMT 構成変数が設定されます。	ILOM での対応なし

表 B-2 機能別 ALOM CMT シェルコマンド (対応する ILOM コマンドあり) (続き)

ALOM CMT コマンド	概要	対応する ILOM コマンド
showplatform [-v]	ホストシステムのハードウェア構成に関する情報と、そのハードウェアがサービスを提供しているかどうかを表示します。-v オプションを指定すると、表示されているコンポーネントに関する詳細情報が表示されます。	show /HOST
showfru	ホストサーバー内の現場交換可能ユニット (FRU) に関する情報を表示します。	ILOM の show コマンドを使用して、静的 FRU 情報を表示します。動的 FRU 情報については、ALOM CMT の showfru コマンドを使用してください。
showusers [-g lines]	ALOM CMT に現在ログインしているユーザーのリストを表示します。このコマンドの表示書式は、UNIX コマンド who の表示書式と類似しています。-g オプションを指定すると、lines で指定した行数を表示するたびに表示を一時停止します。	show /SP/sessions ILOM には -g に相当するオプションはありません。
showhost [version]	ホスト側のコンポーネントのバージョン情報を表示します。version オプションを指定すると、オプションを指定しない場合の showhost コマンドと同じ情報が表示されます。	show /HOST
showkeyswitch	仮想キースイッチの状態を表示します。	show /SYS keyswitch_state
showsc [param]	現在の非揮発性の読み取り専用メモリー (NVRAM) の構成パラメータを表示します。	show target property
showdate	ALOM CMT の日付を表示します。ALOM CMT の時刻は、現地時刻ではなく協定世界時 (UTC) で表現されます。Solaris OS と ALOM CMT の時刻は同期化されません。	show /SP/clock datetime

表 B-2 機能別 ALOM CMT シェルコマンド (対応する ILOM コマンドあり) (続き)

ALOM CMT コマンド	概要	対応する ILOM コマンド
ssh-keygen -l	Secure Shell (SSH) ホスト鍵を生成し、ホスト鍵	show /SP/services/ssh/keys rsa dsa
ssh-keygen -r	フィンガープリントを SC に表示します。	set /SP/services/ssh generate_new_key_action=true
ssh-keygen -t [rsa dsa]		set /SP/services/ssh generate_new_key_type=[rsa dsa]
usershow [username]	すべてのユーザーアカウント、アクセス権レベル、およびパスワード割り当ての有無を示すリストを表示します。	show /SP/users
useradd username	ALOM CMT にユーザーアカウントを追加します。	create /SP/users/username
userdel username	ALOM CMT からユーザーアカウントを削除します。	delete /SP/users/username
userdel -y username	-y オプションを使用すると、確認の質問をスキップできます。	delete -script /SP/users/username
userpassword [username]	ユーザーのパスワードを設定または変更します。	set /SP/users/username password
userperm [username] [c] [u] [a] [r]	ユーザーアカウントのアクセス権レベルを設定します。	set /SP/users/username role=permissions (ここで、permissions は Administrator または Operator)
ログコマンド		
showlogs [-p logtype [p]]	ALOM CMT RAM イベントログに記録されたすべてのイベントの履歴、または持続ログに記録されたメジャーイベントおよびクリティカルイベントを表示します。-p オプションを指定すると、RAM イベントログ (logtype r) のエントリのみを表示するか、持続イベントログ (logtype p) のエントリのみを表示するかを選択できます。	show /SP/logs/event/list ILOM には -g に相当するオプションはありません。
consolehistory [-b lines -e lines -v] [-g lines] [boot run]	ホストサーバーコンソールの出力バッファを表示します。	ILOM での対応なし

表 B-2 機能別 ALOM CMT シェルコマンド (対応する ILOM コマンドあり) (続き)

ALOM CMT コマンド	概要	対応する ILOM コマンド
状態コマンドおよび制御コマンド		
showenvironment	ホストサーバーの環境状態を表示します。この情報には、システムの温度、電源装置の状態、フロントパネルの LED の状態、ハードディスクドライブの状態、ファンの状態、電圧と電流のセンサーの状態があります。	show -o table -level all /SYS
shownetwork [-v]	現在のネットワーク構成情報を表示します。-v オプションを指定すると、DHCP サーバーの情報などのネットワークに関する追加情報が表示されます。	show /SP/network
console [-f]	ホストシステムのコンソールに接続します。-f オプションを指定すると、コンソールの書き込みロックが強制的に別のユーザーに移動します。	start /SP/console ILOM には -f に相当するオプションはありません。
break [-c]	ホストサーバー上で動作している Solaris OS ソフトウェアを中断し、Solaris ソフトウェアが起動されたモードに応じて、OpenBoot PROM または kmdb に制御を移します。	set /HOST send_break_action=break
break [-D]		set /HOST send_break_action=dumpcore
bootmode [normal] [reset_nvram] [config=configname] [bootscript=string]	ホストサーバーの OpenBoot PROM ファームウェアの起動方法を制御します。	set /HOST/bootmode <i>property=value</i> (ここで、 <i>property</i> は state、config、または script)

表 B-2 機能別 ALOM CMT シェルコマンド (対応する ILOM コマンドあり) (続き)

ALOM CMT コマンド	概要	対応する ILOM コマンド
flashupdate -s <i>IPaddr</i> -f <i>pathname</i> [-v]	ホストファームウェアおよび ALOM CMT ファームウェアの両方のシステムファームウェアをダウンロードおよび更新します。ILOM では、 <i>ipaddr</i> は TFTP サーバーである必要があります。DHCP が使用されている場合、 <i>ipaddr</i> は TFTP ホストの名前に置き換えることができます。	load -source tftp:// <i>ipaddr</i> / <i>pathname</i>
reset [-c]	ホストサーバーでハードウェアリセットを生成します。	reset /SYS
reset [-y] [-c]	-y オプションを使用すると、確認の質問をスキップできます。	reset -script /SYS
powercycle [-y] [-f]	poweroff のあとに poweron を実行します。	stop /SYS start /SYS
powercycle -y	-f オプションを指定すると、poweroff が強制的に即時に実行されます。	stop -script /SYS start -script /SYS
powercycle -f	-f オプションを指定しない場合は、正常な停止が試行されます。	stop -force /SYS start -force /SYS
poweroff	ホストサーバーの主電源を切ります。	stop /SYS
poweroff -y	-y オプションを使用すると、確認の質問をスキップできます。	stop -script /SYS
poweroff -f	ALOM CMT は、正常なサーバーの停止を試行します。-f オプションを指定すると、即時停止が強制的に行われます。	stop -force /SYS
poweron	ホストサーバーまたは FRU の主電源を入れます。	start /SYS
setlocator [on off]	サーバーのロケータ LED をオンまたはオフに切り替えます。	set /SYS/LOCATE value= <i>value</i>
showfaults [-v]	現在検出されているシステム障害を表示します。	show /SP/faultmgmt

表 B-2 機能別 ALOM CMT シェルコマンド (対応する ILOM コマンドあり) (続き)

ALOM CMT コマンド	概要	対応する ILOM コマンド
<code>clearfault <i>UUID</i></code>	手動でシステム障害を修復します。	<code>set /SYS/component clear_fault_action=true</code>
<code>showlocator</code>	ロケータ LED の現在の状態がオンまたはオフのいずれであるかを表示します。	<code>show /SYS/LOCATE</code>
<code>removeblade</code>	サービスプロセッサのタスクを一時停止して、青色の取り外し可能 LED を点灯します。これは、ブレードを安全に取り外せることを示しています。	<code>set /SYS prepare_to_remove_action=true</code>
<code>unremoveblade</code>	取り外し可能 LED が消灯し、サービスプロセッサの状態が元に戻ります。	<code>set /SYS return_to_service_action=true</code>
FRU コマンド		
<code>setfru -c <i>data</i></code>	-c オプションを使用すると、システムのすべての FRU にインベントリコードなどの情報を格納できます。	<code>set /SYS customer_frudata=<i>data</i></code>
<code>showfru [-g lines] [-sl-d] [FRU]</code>	ホストサーバー内の FRU に関する情報を表示します。	ILOM の show コマンドを使用して、静的 FRU 情報を表示します。
<code>removefru [-y] [FRU]</code>	電源装置などの FRU を取り外す準備をします。-y オプションを使用すると、確認の質問をスキップできます。	<code>set /SYS/PS0 prepare_to_remove_action=true</code>
自動システム回復 (Automatic System Recovery、ASR) コマンド		
<code>enablecomponent <i>asr-key</i></code>	asr-db ブラックリストからコンポーネントを削除します。	<code>set /SYS/component component_state=enabled</code>
<code>disablecomponent <i>asr-key</i></code>	asr-db ブラックリストにコンポーネントを追加します。	<code>set /SYS/component component_state=disabled</code>
<code>showcomponent <i>asr-key</i></code>	システムコンポーネントおよびそのテスト状態 (ASR 状態) を表示します。	<code>show /SYS/component component_state</code>

表 B-2 機能別 ALOM CMT シェルコマンド (対応する ILOM コマンドあり) (続き)

ALOM CMT コマンド	概要	対応する ILOM コマンド
clearasrdb	asr-db ブラックリストからすべてのエントリを削除します。	ILOM での対応なし
その他のコマンド		
help [command]	すべての ALOM CMT コマンドのリスト、およびその構文と機能の概要を表示します。オプションとしてコマンド名を指定すると、そのコマンドのヘルプを表示できます。	help
resetsc	ALOM CMT を再起動します。-y オプションを使用すると、確認の質問をスキップできます。	reset /SP
resetsc -y		reset -script /SP
userclimode	シェルのタイプを <i>shelltype</i> に設定します。ここで、 <i>shelltype</i> は default または alom です。	set /SP/users/username cli_mode= <i>shelltype</i>
logout	ALOM CMT シェルセッションからログアウトします。	exit

ALOM CMT 変数と ILOM プロパティの比較

表 B-1 に、ALOM CMT 変数および ILOM プロパティを比較できるように示します。この比較は、1 対 1 のマッピングを示すものではありません。ILOM プロパティを理解するには、ILOM 自身のコンテキストでこれらの ILOM プロパティを参照することが必要です。

表 B-3 ALOM CMT 変数と対応する ILOM プロパティ

ALOM CMT 変数	対応する ILOM プロパティ
diag_level	/HOST/diag level
diag_mode	/HOST/diag mode
diag_trigger	/HOST/diag trigger
diag_verbosity	/HOST/diag verbosity
if_connection	/SP/services/ssh state
if_emailalerts	/SP/clients/smtp state
if_network	/SP/network state
if_snmp	/SP/services/snmp
mgt_mailalert	/SP/alertmgmt/rules
mgt_mailhost	/SP/clients/smtp address
mgt_snmptraps	/SP/sevices/snmp v1 v2c v3
mgt_traphost	/SP/alertmgmt/rules /SP/services/snmp port
netsc_dhcp	/SP/network pendingipdiscovery
netsc_commit	/SP/network commitpending
netsc_enetaddr	/SP/network macaddress
netsc_ipaddr	/SP/network pendingipaddress
netsc_ipgateway	/SP/network pendingipgateway
netsc_ipnetmask	/SP/network pendingipnetmask
sc_backupuserdata	/SP/ <i>policy</i> BACKUP_USER_DATA
sc_clieventlevel	該当なし
sc_cliprompt	該当なし
sc_clitimeout	該当なし
sc_clipasswdecho	該当なし
sc_customerinfo	/SP system_identifier
sc_escapechars	/SP/console escapechars
sc_powerondelay	/SP/policy HOST_POWER_ON_DELAY
sc_powerstatememory	/SP/policy HOST_LAST_POWER_STATE
ser_baudrate	/SP/serial/external pendingspeed

表 B-3 ALOM CMT 変数と対応する ILOM プロパティ (続き)

ALOM CMT 変数	対応する ILOM プロパティ
ser_data	該当なし
ser_parity	/SP/serial/external pendingparity
ser_stopbits	/SP/serial/external pendingstopbits
sys_autorestart	/HOST autorestart
sys_autorunonerror	/HOST autorunonerror
sys_eventlevel	該当なし
sys_enetaddr	/HOST macaddress

索引

A

admin ユーザー, 41

Administrator の役割, 41

パスワード, 41

alom CLI モード, 41, 43

ALOM CMT シェル

admin ユーザー, 41

コンソールへの切り替え, 42

ALOM CMT シェルコマンド

ILOM コマンドとの比較, 43 ~ 50

bootmode, 47

break, 47

clearasrdb, 50

clearfault, 49

consolehistory, 46

disablecomponent, 49

enablecomponent, 49

flashupdate, 48

help, 50

logout, 50

password, 44

powercycle, 48

poweroff, 48

poweron, 48

removeblade, 49

removefru, 49

reset, 48

resetsc, 50

restartssh, 44

setdate, 44

setdefaults, 44

setfru, 49

setkeyswitch, 44

setlocator, 48

setsc, 40, 44

setupsc, 44

showcomponent, 49

showdate, 45

showenvironment, 47

showfaults, 48

showfru, 45, 49

showhost, 45

showkeyswitch, 45

showlocator, 49

showlogs, 46

shownetwork, 47

showplatform, 45

showsc, 45

showusers, 45

ssh-keygen, 46

unremoveblade, 49

useradd, 46

userclimode, 50

userdel, 46

userpassword, 46

userperm, 46

usershow, 46

コンソール, 47

ALOM CMT 変数, 51 ~ 52

netsc_commit, 40

netsc_ipaddr, 40

ser_commit, 40

確定, 39 ~ 40

C

CLI モード
 alom, 41, 43

D

DHCP サーバーの IP アドレス, 27

F

FRU データ, 19 ~ 21

H

/HOST autorestart プロパティ, 11
/HOST autorunonerror プロパティ, 11
/HOST macaddress プロパティ, 10
/HOST send_break_action プロパティ, 17
/HOST status プロパティ, 17
/HOST/bootmode config プロパティ, 6
/HOST/bootmode script プロパティ, 7
/HOST/bootmode state プロパティ, 7
/HOST/diag level プロパティ, 13
/HOST/diag mode プロパティ, 14
/HOST/diag trigger プロパティ, 14
/HOST/diag verbosity プロパティ, 15

I

ILOM コマンド

 ALOM CMT シェルコマンドとの比較, 43 ~ 50
 create, 41, 46
 delete, 46
 exit, 41, 50
 help, 50
 load, 48
 reset, 48, 50
 set, 6 ~ 7, 11, 13 ~ 15, 17, 20, 21, 23 ~ 26, 28 ~ 29, 33, 40 ~ 41, 44, 46 ~ 50
 show, 8, 10 ~ 11, 15, 17, 27, 43, 45 ~ 49
 start, 47 ~ 48
 stop, 48

ILOM プロパティ, 51 ~ 52

 /HOST/diag level, 13
 /SP/console escapechars, 23
 /SP/network commitpending, 40
 /SP/policy BACKUP_USER_DATA, 24
 /SP/serial/external commitpending, 40

 /HOST autorestart, 11
 /HOST autorunonerror, 11
 /HOST macaddress, 10
 /HOST send_break_action, 17
 /HOST status, 17
 /HOST/bootmode config, 6
 /HOST/bootmode script, 7
 /HOST/bootmode state, 7
 /HOST/diag mode, 14
 /HOST/diag trigger, 14
 /HOST/diag verbosity, 15
 /SP customer_frudata, 19
 /SP reset_to_defaults, 21
 /SP system_identifier, 20
 /SP/network pendingipaddress, 40
 /SP/policy HOST_LAST_POWER_STATE, 24
 /SP/policy HOST_POWER_ON_DELAY, 25
 /SP/services/ssh
 generate_new_key_action, 29
 /SP/services/ssh
 generate_new_key_type, 28
 /SP/services/ssh
 restart_sshd_action, 29
 /SP/services/ssh state, 29
 /SP/users/admin cli_mode, 41
 /SYS keyswitch_state, 33
 確定, 39 ~ 40

IPMI

 インジケータ, 38
 センサー, 37 ~ 38

L

Logical Domains (LDoms), 5 ~ 6, 8 ~ 9

M

MAC アドレス, 10, 12

O

OpenBoot PROM (OBP), 5 ~ 6, 7
 バージョン, 10, 13
 ブレイク信号, 17

S

Secure Shell (SSH) 設定, 28 ~ 31

 /SP customer_frudata プロパティ, 19
 /SP reset_to_defaults プロパティ, 21

/SP/system_identifier プロパティ, 20
/SP/console escapechars プロパティ, 23
/SP/network commitpending プロパティ, 40
/SP/network pendingipaddress プロパティ
, 40
/SP/policy BACKUP_USER_DATA プロパティ
, 24
/SP/policy HOST_LAST_POWER_STATE プロパ
ティ, 24
/SP/policy HOST_POWER_ON_DELAY プロパ
ティ, 25
/SP/serial/external commitpending プロパ
ティ, 40
/SP/services/ssh
 generate_new_key_action プロパティ
 , 29
/SP/services/ssh generate_new_key_type
プロパティ, 28
/SP/services/ssh restart_sshd_action プ
ロパティ, 29
/SP/services/ssh state プロパティ, 29
Sun Update Connection Manager, 2
SunSolve, 2
/SYS keyswitch_state プロパティ, 33

う

ウォッチドッグタイマー, 11, 12 ~ 13

か

仮想キースイッチ「キースイッチ」を参照。

き

キースイッチ設定, 33 ~ 35

起動モード

 bootmode, 6
 管理スクリプト, 7
 構成の管理, 6
 リセットの管理, 7

こ

コンソール

 ALOM CMT への切り替え, 42
 エスケープ文字, 22 ~ 23

さ

サーバー

 プラットフォーム情報, 17, 45

サービスプロセッサ (SP)

 システム識別子, 20 ~ 24
 システムファームウェアの更新, 2
 電源投入, 26 ~ 27
 ホスト名, 21

し

出荷時のデフォルト, 2, 3, 21

診断, 13 ~ 16

 エラー時の自動実行, 11, 12
 仮想キースイッチ, 34

た

タイマー、ウォッチドッグ, 11, 12 ~ 13

て

デフォルト、リセット, 2 ~ 3, 21

電源状態の記憶, 24

電源投入, 24 ~ 27, 33 ~ 35

電源投入時自己診断 (POST), 13 ~ 16

 バージョン, 10, 13

電源の状態, 24

ね

ネットワーク構成プロパティ、確定, 39 ~ 40

ネットワーク構成プロパティの確定, 39 ~ 40

は

パスワード

 Administrator の役割, 41
 root, 2 ~ 3

バックアップ

 ユーザーデータベース, 24

バックアップ、ユーザーデータ, 24

ふ

ファームウェア

 更新, 2

ファームウェアの更新, 2

プラットフォーム

表示, 17, 45

プロパティ

「ILOM プロパティ」も参照

システムユーザー, 16

電源状態の記憶, 24

バックアップデータ, 24

ゆ

ユーザーデータベース

バックアップ, 24

り

リモートコントロールの設定

CLI での変更, 5

Web インタフェースでの変更, 8